

令和6度

保谷小学校

1年生

地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

単元名：生活科「きせつとなかよし あき」
(活動名)

ねらい：秋の自然を観察したり、自然物を使って遊んだりする活動から、生活を楽しく創り出す。学校やこの地域ならではの自然の豊かさに気づき、関わることで、地域の良さを感じ取り、生活の中に四季の変化に応じた生活の楽しさを想像していくことをねらいとしている。

【10月～11月】

自然豊かな校庭にて、季節を感じながら植物や虫、生物などと触れ合う活動を充実させています。

夏から秋へと変化した木々や生きものの様子を観察する中で、落ち葉や木の実などの秋の宝物を見つけ、それらを使ってどんな遊びをしようかと想像を広げていました。



身近な地域の公園にて自然体験を行いました。クヌギやマテバシイのつやつやで立派などんぐりに、目を輝かせ、夢中で拾っていました。

【10月31日】

遠足 いこいの森公園



【11月4日】

「あきのたからものランド」での地域の園児との交流



「秋のよさや楽しさを伝えたい。」という思いから、見つけた秋の宝物を用いた作品や工夫して考えた遊びで地域の園児と一緒に遊ぶことになりました。園児にどんぐりごまや松ぼっくりけん玉のやり方を教えてあげたり、一緒に木の実のネックレスを作ったりして、遊んでいました。園児の「楽しかった！」の声に、とても満足した様子でした。

学習発表の場だけでなく、園児との繋がりを深めるよい交流の場になりました。

コラム

生活科の学習では、子どもたちが自然と触れ合う活動を繰り返すことで、自分たちの周りの自然が日々少しずつ変化をしていることに気付いていきました。子どもたちからは、保谷の地域ならではの自然を感じながら過ごし、それらを生活に取り入れていこうとする姿が見られるようになりました。これからも四季に合った楽しみ方を見つけながら、地域を大切にしたいという思いをもち続けてほしいです。